

広報

おやすみ



2020

8

No.187

夏本番

NEXT きらめき[★]

鴨川 沙矢^{さや} さん (大洲北中学校コンピュータ部3年)

全国中学生創造ものづくり教育フェア
第19回毎日パソコン入力コンクール 冬季大会出場



今後の目標について聞くと、「次の大会に向けて自分のスキルを磨き、前回よりも上位に入賞したいです」と語りました。

鴨川さんは、小学6年生のときにタブレットでタイピングの練習をしていました。中学生になりコンピュータ部に入り、本格的に練習を始めました。普段は大会で使われる機材と同じものを使って練習をしています。

大洲北中学校3年(出場時2年)の鴨川沙矢さんは、今年1月に東京都足立区で行われた全国大会に出場しました。全国大会の印象について聞くと、「緊張して思うように指を動かせませんでした。そのような状況でも全力を尽くすことができました」と語っていました。

8月の納税など 納期限は8月31日(月)です。

税 別	8月	9月	10月	11月
市 県 民 税	2期		3期	
固 定 資 産 税				
軽 自 動 車 税				
国民健康保険税	2期	3期	4期	5期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。
納期限内であればコンビニでも納付することができます。

現在の^{大洲}

	人の動き(先月比)	交通事故(昨年同期)
人 口	42,258人 (- 49)	件 数 20件(34件)
男	20,216人 (- 29)	死 者 1人(0人)
女	22,042人 (- 20)	負傷者 24人(38人)
世帯数	19,864世帯(- 4)	

(2020年6月末現在)

CONTENTS 目次

2ページ	NEXTきらめき・今月の表紙
3ページ～	(特集) 大洲市復興計画
8ページ～	新型コロナに関するお知らせ
12ページ	おおずニュース
13ページ	シリーズ
14ページ～	おしらせピックアップ
22ページ～	情報ひろば
24ページ～	集まれ0級若モン・図書館
26ページ～	保健センター・各種相談ガイド
28ページ	がんばるひと(五郎荒田地域猫の会)

今月の表紙



6月5日(金)、五郎地区の藤田秀美^{ひでみ}さんの園地でエコラブスイカの収穫取材しました。エコラブスイカは、糖度が高くしっかり甘味を感じることができるのが特徴で、令和元年度に「大洲ええモンセレクション」に認定されています。

(特集)

大洲市復興計画《第2版》策定

きらめく大洲、復興に向けて

平成31年3月に策定した大洲市復興計画《確定版》においては、「きらめく大洲をみんなで未来につなぐ」を基本理念に、市民みんなの手をつないで復興し、未来へつなげていくため、その基本方針や目指すべき方向性などについてまとめ、令和元年を復興元年と位置付け、市民生活、生活基盤、経済産業の再生と防災力の向上を図り、まちの賑わいを取り戻すことができるよう、復旧・復興を第一に取り組んできました。

また、令和元年度には、第2期大洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定や大洲市都市計画マスタープランの見直しなど、復興計画に関連する各種計画との連携・整合性を図ってきました。

令和2年度は大洲市復興計画期間6年間の計画中期となる3年目となり、復興に向けたさまざまな施策も計画から実施へと移行していく大切な時期にかかってくることから、大洲市復興計画《確定版》を見直し《第2版》(案)について、大洲市復興推進協議会で審議・承認され、策定したところです。

大洲市復興計画《第2版》

計画《第2版》内容

計画策定から1年以上が経過し、ビジョン別実施計画の内容や期間などを現状に合わせて見直ししました（令和2年6月1日現在で修正）。そのほか、地区別実施計画を策定することとしていた「肱川地区復興まちづくり計画」については、肱川地区復興まちづくり推進協議会にて承認されたことから、本計画に追加しました。

なお、「大川地区復興まちづくり計画」については、今後も地域において継続して各復興事業などを検討・協議していく予定であり、《第2版》においては、復興イメージ図およびスケジュール（案）を掲載しました。

また、これまでの復旧・復興の状況や復興計画の進捗状況（5ページ参照）をまとめました。

「大洲市復興計画《第2版》」全編については、大洲市公式ホームページに掲載しています。

復興事業「ピックアップ」

「災害公営住宅の整備」

応急仮設住宅については、徳森仮設団地と大駄場仮設団地（肱川）に43世帯85人、みなし仮設（民間賃貸住宅等）に62世帯137人（R2・7・1現在）の被災された方が入居しています。こうした応急仮設住宅や賃貸住宅などでの生活を余儀なくされている人を対象に災害公営住宅への入居希望者を把握し、「大洲市災害公営住宅基本計画」に反映し、現在建設工事を進めています。



建設中の災害公営住宅（森団地）

「企業用地の確保と企業留置」

平成30年7月豪雨災害で多くの企業が被災し、多大な損害を受けました。

9割以上の企業が再開されましたが、一部、撤退・廃業された企業もあり、また、再開された企業の中にも、水害のリスクを考慮し、現在の場所です事業活動を続けることに危機感を持たれている企業もあります。

さらに、肱川の堤防工事によって用地や建物などに影響が生じる企業もあり、市では、企業が市内に留まってもらえるよう、留置対策として、移転先を確保する取り組みを推進しているところです。

なお、菅田・徳森地区（県農業試験場蚕業支場跡地）で、工業用地を造成中ですが、8月に完成予定、9月には引き渡しができる見込みです。その他、堤防整備などにより移転が必要となる候補地についても検討を進めています。



【造成中の工業用地】

「肱川減災対策（内水対策）」

肱川は、支川が非常に多いという特徴を持つ河川です。その支川からは、普段は本川へ水が流れていますが、本川の水位が高い場合には逆流して入ってくる水を止める必要があります、そうした役割を担う樋門や支川などの内水を排除するための排水ポンプ等の対策を実施し、被害軽減に努めています。

現在の「減災対策計画」は、平成16年、17年、23年の洪水により深刻な浸水被害が発生したことから、浸水被害の軽減などを目的に策定されていますが、今後は、肱川の堤防整備により、これまで以上に内水対策の必要性が高まることから、抜本的な見直しを行い、内水対策を進めていく予定です。



【稼働中の排水ポンプ車（都谷川排水樋門）】

【大洲市復興計画《ビジョン別実施事業》進捗状況】

【88事業うち53事業（約6割）が完了】

令和2年6月1日現在

ビジョン	基本方針	短期	中期		長期			事業数	完了済事業数	完了率
		H30	R1	R2	R3	R4	R5			
1 市民生活の再生		4	10	5	4	0	1	24	14	58.3%
	①住宅対策	1	3	1	3	0	0	8	4	50.0%
	②生活再建支援	2	5	4	1	0	1	13	7	53.8%
	③コミュニティの再生	1	2	0	0	0	0	3	3	100.0%
2 生活基盤の再生		9	13	3	0	2	2	29	22	75.9%
	①道路・河川などの復旧	0	0	2	0	0	0	2	0	-
	②上下水道などの復旧	1	2	0	0	0	0	3	3	100.0%
	③公共施設などの復旧、機能回復	8	11	1	0	2	0	22	19	86.4%
	④社会基盤の整備	0	0	0	0	0	2	2	0	-
3 経済・産業の再生		6	7	2	1	0	6	22	13	59.1%
	①農林水産業の再生・再興	4	2	2	0	0	2	10	6	60.0%
	②商工業の再建支援	1	3	0	1	0	2	7	4	57.1%
	③観光の再興	1	2	0	0	0	2	5	3	60.0%
4 防災力の向上		0	4	4	0	1	4	13	4	30.8%
	①防災対策の強化	0	1	2	0	1	2	6	1	16.7%
	②地域防災計画などの見直し	0	0	1	0	0	0	1	0	-
	③地域の自主防災力の向上	0	1	0	0	0	2	3	1	33.3%
	④災害の記録化	0	2	1	0	0	0	3	2	66.7%
合 計		19	34	14	5	3	13	88	53	60.2%
			48		21					

大洲市復興推進協議会



復興推進協議会の状況

令和2年6月25日(木)大洲市役所大ホールにおいて、第4回大洲市復興推進協議会が開催されました。

会議では、復旧・復興の状況報告の後、復興計画の進捗状況をはじめ、復興計画に追加される「肱川地区復興まちづくり計画」の概要など復興計画《第2版》(案)について審議されました。

委員からは、復興計画の事業に位置付けている「災害時の消防団等への連絡体制の強化や肱川本川・支川の治水対策」などについて意見が出され、今後も復興計画《第2版》に基づき、計画的に復興事業を推進していくことが確認されました。

大洲市復興推進協議会 松村会長の思い

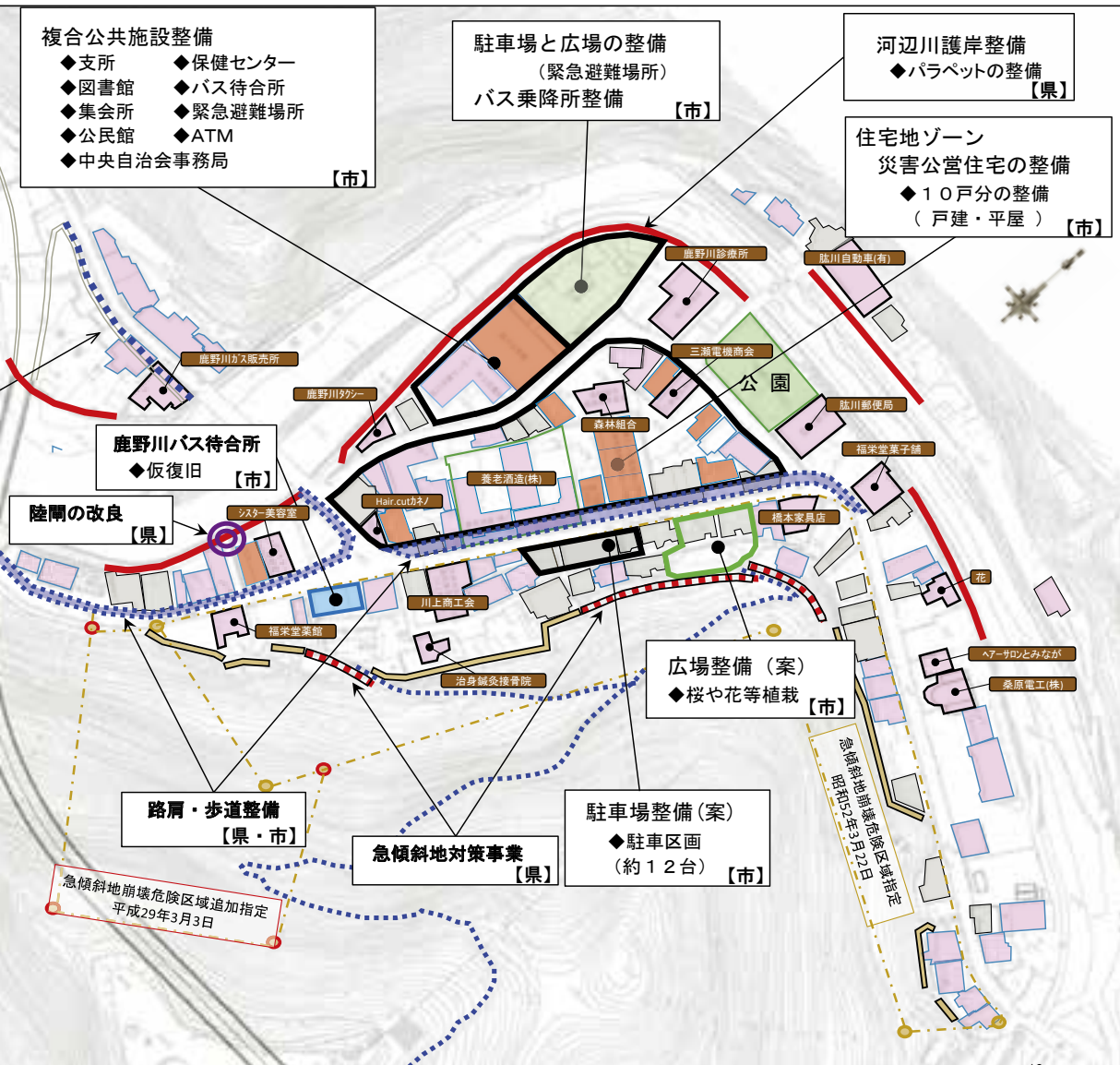
大洲市復興計画を進めていく中で、これから起こりうる災害に対して、地域の人と協力し自分たちに何ができるかを考えていかなければならないと思います。今回被災しなかった人も復興計画の各事業が推進されていくなかで大洲市がどのように変化していくのかを確認しながら、各地域の防災に役立てていただきたいと思っています。

これまで大洲に住んできた先人は、肱川とうまく付き合ってきたと思います。先人たちの教えを誇りに感じながら、みなさん一人ひとりで判断しどのように行動するかが大切になってきます。そしてこれからは、災害に備える正しい行動が必要になってくるのではないかと思います。



大洲市復興推進協議会
のぶひこ 会長
愛媛大学 松村暢彦 教授

地区別実施計画



肱川地区復興まちづくり計画「鹿野川地区復興事業計画図」

計画では、「住まいとくらしの再生」「安全・安心の確保」「まちの再生」を図っていくため、木造平屋二戸建ての災害公営住宅10戸の整備や肱川地区複合公共施設の整備をはじめ、河辺川沿いの護岸整備や県道改良などの事業を大洲市復興計画期間である令和5年度までに進めていきます。



大川地区復興まちづくり計画について

大川地区の堤防整備計画についての説明会が6月12日(金)に大成体育館で開催され、愛媛県から計画内容について説明がありました。

また、市から、「大川地区復興まちづくり計画」の素案について概要を説明し、今後、地域の代表者からなる大川地区復興まちづくり推進協議会において、計画の策定に向けて、各事業を検討していくことが確認されました。



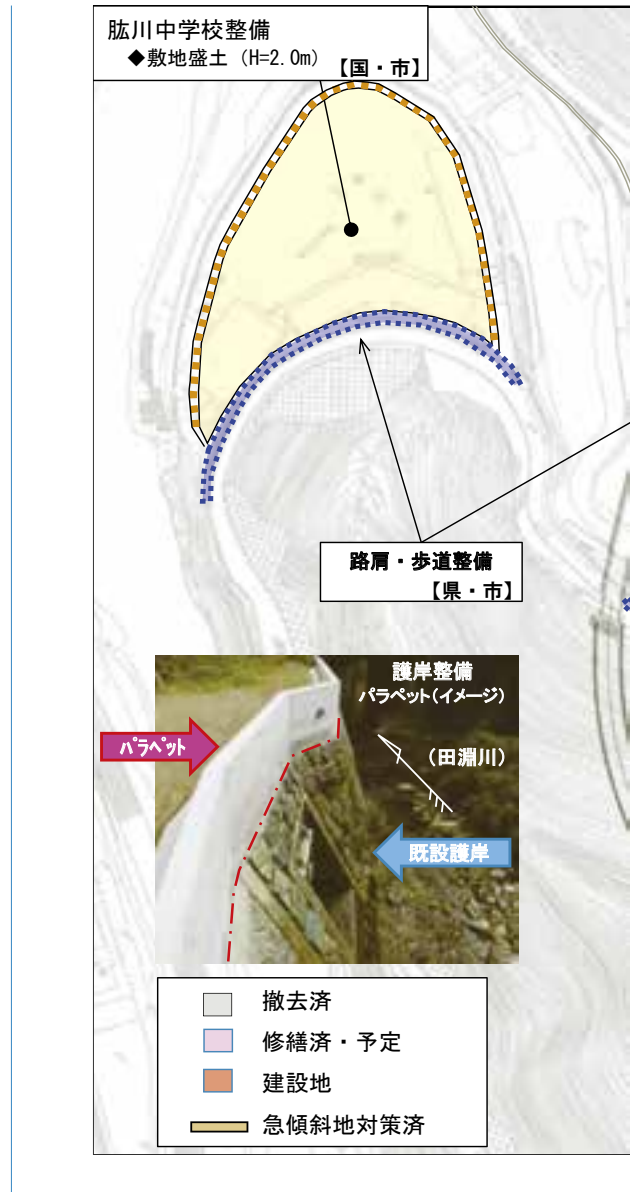
応援メッセージ



△たきのえいじさん △かとうれい子さん



大洲市きらめき大使から



気持ち
 気をどう持つかで
 気持ちは変わる
 気持ちは動きまわる
 明るくもなり暗くもなる
 浮いたり沈んだりもする
 辛い時の気持ちに光を注ぐのは人のやさしさ
 そしてやがて元気になる
 一流の気持ちの持ち主になれば
 一流の気持ちが判るのだが
 それがなかなかむずかしい

作詩作曲家
 たきのえいじ
 令和二年六月

